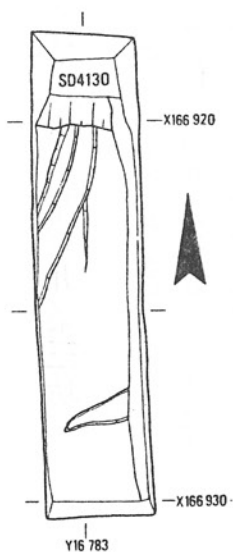


奈良・藤原京跡

- 1 所在地 奈良県橿原市木之本町
- 2 調査期間 一九八七年(昭62)四月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 牛川喜幸
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 七世紀末～八世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

藤原宮第五〇一次調査として行ったもので、調査地は藤原京左京六条三坊西北坪の東南部にあたり、第五〇次(西)調査地『木簡研究』第九号参照)の西約二〇mの地点である。東西三m、南北二・八mの調査区を設定して行い、面積は三八・四㎡である。

主な遺構は第五〇次調査地より続く東西大溝SD四一三〇で、調



第54-1次調査遺構図

査区の北端で南岸から幅二・六m分を検出した。しかし想定位置より約一〇m北へずれるため、この地点と第五〇次調査地との約二〇mの間で溝が屈曲しているとみられる。深さは一・六m、堆積は三層あり、上・中層は奈良時代、下層は藤原宮期である。木簡は中層から一点出土した。他に上層からパルメット押捺文軒平瓦、下層から山田寺系の単弁八弁蓮華文軒丸瓦が出土した。

8 木簡の积文・内容

(1) 「〈尾張国海部郡魚鮓三斗六升〉」

172×20×5 031

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(一)』(一九八七年)

同『飛鳥・藤原宮発掘調査概報一八』(一九八八年)

(加藤 優)